

新学校給食センターは立ち止まって見直しを

副市長／立ち止まって今後対応していく。



中村 久幸 議員

新学校給食センターの工事予算が11億円から約21億円に倍増したことについて

議員 10億円もの増額を、ただ間違いだった、で済まそうとされるのか、責任の所在も、何の反省もないまま進めていかれるのか。
 少しでも削減するといふような努力をするべきではないか。
教育長 計画当初で、見込みの甘かったことについては、改めて陳謝し、昨日の市長の発言を重く

受け止め、実施設計で、仕様など綿密な設計を行い、削減につながるような検討を行っていく。
議員 この20億何千万という金額は、その専門家が積算して出された額ということか。
教育次長 設計業者と話をしながら詰めた金額である。
議員 専門家が本当に、面積が2割程度増えたので29%増、塩害対策で14%とか、こういう積算の仕方をすることには、違和感を覚えるが。
教育次長 提出した表はこちらで作成したもので、金額は事業者と詰めた額になる。

議員 設計者と詰めた、20億数千円という額を、塩害で何割とか、面積が何割とかですり合わせて職員で表を作って議員には出したということか。では本当は、どういう根拠で出したのか。
教育次長 大村の中学校の給食センターの設計額を参考にした。

議員 何とかすり合わせて答弁して、一般質問だけやり過ぎせばという安易な、議会軽視の体質を作り上げてしまった。
 とにかく、今回本当に立ち止まって、実際現場で働く人たちの意見も取り入れて、市長も副市長も教育長も、三役で見直しの決断をされていると伺ってよろしいか。
市長 昨日も、考えるとはなない。
副市長 市長も言われたとおり、やはりここは立ち止まるべきだと思ってるので、その方向で今後対応していく。

新給食センター工事費用、値上りの理由 説明表 (千円)

項目	当初の想定事業費	面積2割増(29%)	塩害対策1割(14%)増	諸経費3割(36%)増	落札額1割(10%)増
建築主体工事	354,350	457,112	521,108	708,707	779,578
機械設備工事	100,700	129,903	148,089	201,401	221,541
電気設備工事	232,180	299,512	341,444	464,364	510,800
備品・消耗品・その他経費	436,905	458,475	471,908	511,286	526,162
合計	1,128,455	1,349,322	1,486,869	1,890,078	2,042,401

コミュニティバスなどの運行で交通弱者の支援をはいかがでしょうか

市長／タクシー券の交付を行うことで、コミュニティバスの新たな運行は考えていない。



近藤 一宇 議員

交通費助成制度について

議員 近隣の市や町ではジャンボタクシーやセダン型車両を利用して、設定されたルートを定期的に運行し、公共交通の空白地帯の解消や、高齢者を含む交通弱者の交通支援をしているが。
市長 平成21年度に、3ヶ月間、乗合いタクシーの実証実験を行ったが、利用者が少なかつた。あれから8年が経ち、高齢化率も変わっている。将来、このままでいいのかと考えるとところである。

議員 お年寄りの生きがいのためにも検討をして頂きたい。
資源ごみ・不燃物収集について
議員 資源ごみ、不燃物収集については、どちらも第1日曜日8時から12時、第3日曜日は不燃物が8時から12時、資源ごみは8時から午後6時まで。資源ごみも不燃物と同じ時間にするとはできないか。
市民生活部長 人員の配置等については、業務委託先のシルバー人材センターとの協議、連絡調整を適宜行っており、各地域

に適した業務体制で、特段問題はない。
議員 北有馬の資源ごみ収集監視業務員2人から昼休みを除き、1日9時間勤務、夏は暑くて冬は寒い。検討して頂きたいと要望が出ている。
市民生活部長 大変貴重な意見であり、感謝する。
空き家対策について
議員 近隣地域に、安全面から迷惑がかかっている空き家、倒壊しかけた空き家がある。解体撤去が急がれるべきと思うが。
建設部長 空き家の管理については、空家等対策の推進に関する特別措置法において、所有者の責任で適切に行い、市町村は、空き家対策の必要な対策を行うとされている。本市では、空き家対策の計画を策定し、所有者への助言や指導を行うとともに、解体費用の補助制度を設けて、危険な空き家の解体を促進している。最終的な手段として、行政代執行も視野に入れている。



資源ごみ収集監視指導業務

近隣の市や町ではジャンボタクシーやセダン型車両を利用して、設定されたルートを定期的に運行し、公共交通の空白地帯の解消や、高齢者を含む交通弱者の交通支援をしているが。
市長 平成21年度に、3ヶ月間、乗合いタクシーの実証実験を行ったが、利用者が少なかつた。あれから8年が経ち、高齢化率も変わっている。将来、このままでいいのかと考えるとところである。